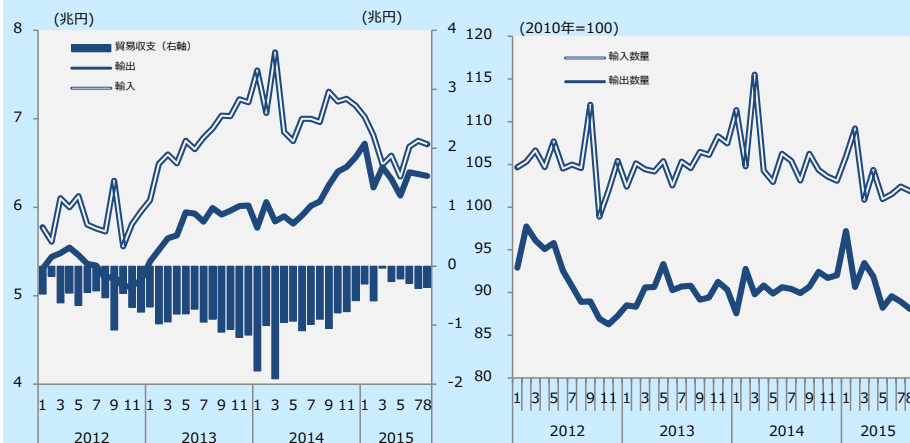


日本：貿易統計（2015年8月）

MRI Daily Economic Points
September 17, 2015

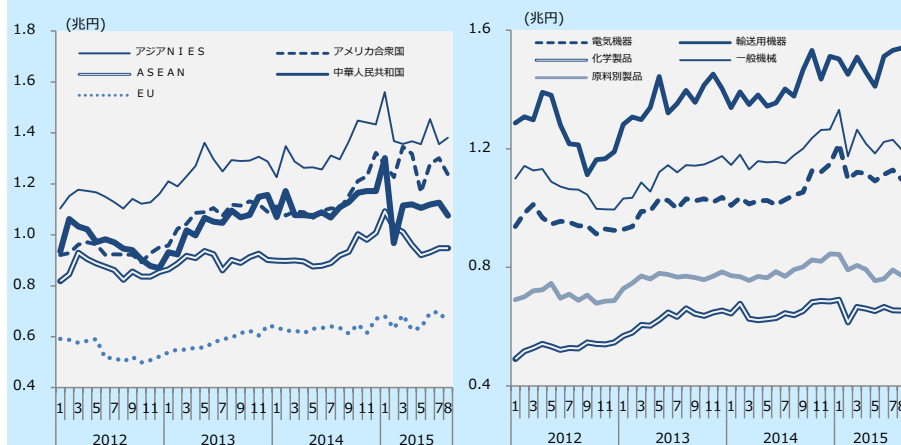
貿易収支

輸出入数量



資料：財務省「貿易統計」。いずれも季節調整値。輸出入数量は三菱総合研究所による季節調整値。

地域別輸出金額／品目別輸出金額



資料：財務省「貿易統計」。三菱総合研究所による季節調整値。

評価ポイント

2015年8月の結果

- 2015年8月の貿易統計（名目）は、輸出金額が季調済前月比▲0.4%（前年同月比+3.1%）、輸入金額は同▲0.6%（同▲3.1%）となった。貿易収支は、季調済値で▲3,588億円と前月（▲3,751億円）からほぼ変わらず。
- 輸出数量は基調済前月比▲0.8%※（前年同月比▲4.2%）、輸入数量は同▲0.5%※（同▲0.7%）となった。輸出数量を地域別にみると、今月は、米国、EU、中国で軒並み減少となった。
※三菱総合研究所による季節調整値。
- 輸出の動向をより詳細にみるため、輸出金額を地域別にみると、中国向けが、3月以降しばらく横ばいで推移していたが、今月は鉄鋼や電気機器が減少したことなどから大きく減少した。また、米国向けとEU向けは、輸送用機械がこのところ増加していた反動から今月は減少し、輸出金額全体も減少となった。中国を除くアジア向けは、概ね横ばいで推移している。
- 輸出金額を品目別にみると、鉄鋼が昨年冬以降需給が悪化し減少を続けていることなどから、原材料製品が減少している。また、今月は、原動機や映像機器が減少することで、一般機械や電気機械が減少した。輸送用機械は、米国、EU向けが減少したものの、その他の地域が底堅く推移しており、引き続き高い水準で推移している。

基調判断と今後の流れ

- 輸出は、中国経済の減速などを背景に、また、輸入は国内消費の不振から、ともに緩やかに減少している。
- 米国、EU向け輸出の減少は、先月までの増加の反動もあり、今後減少を続ける可能性は低い。一方、中国向け輸出については、基調の弱さが再確認されたといえよう。
- 輸出の先行きは、米国の景気拡大と欧州の緩やかな回復がプラス材料ではあるものの、中国経済の減速などを背景に、今後も弱い動きが続くと見込む。中国経済が一段と減速すれば、その影響が世界の貿易停滞・生産活動の抑制につながりかねず、先行きのリスクは高まっている。